

ぶうげんびりあ2月 No.1

2019年 2月号 No.236 <http://www2.synapse.ne.jp/ainohamaen>

編集・発行 障害者支援施設 愛の浜園
奄美市名瀬大字知名瀬2504
TEL:54-8011 FAX:54-8012

「利用者の笑顔は家族の笑顔」先日、「鹿児島県知的障害者福祉協会主催の家族並びに施設職員研修会」に参加してきました。障害者制度改革の行く末を見据えつつ、障害者が安心して暮らしていける社会実現の為に知的障害関係の利用者の家族、職員が一同に会し、それぞれの思い、悩み、要望などの意見交換をしました。その中で、改めて、親の誰もが、わが子のために一生懸命に熱弁している姿をみて、強い絆と愛情を感じる貴重な研修となりました。また、ご家族も研修や交流を通して、色々と学ぶことも出来たのではないかと感じております。親亡き後、今後、制度やサービスが充実していくだろう社会、親が安心し、利用する方々が楽しく過ごせる居場所づくりを目指し、私たちは更に邁進し、「愛の浜園で良かった。」そう思われるように利用者、ご家族の笑顔、幸せのために私たちは頑張ります。(主任:市田)

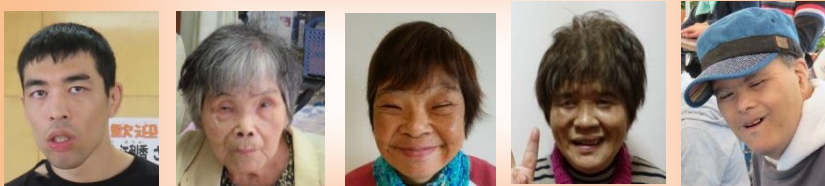
2月行事予定表

4日(月):体重測定 血圧測定
12日(火):ヘルスタイム
14日(木):健康診断(男性)
16日(土):男性理髪
19日(火):合同年の祝い
25日(月):健康診断(女性)
27日(水):健康相談
28日(木):遠足

虐待防止・権利擁護研修

1月23日(土)に、障害者虐待防止・権利擁護研修会に参加させていただきました。最近、ニュースやテレビ・新聞等でも虐待について取り上げられることがあります。虐待には、身体的、性的、心理的、放棄・放任(ネグレクト)、経済的の5つの虐待があり、その中でも、「障害者に対する虐待は3つに分けられます。」「養護者(家族や親族や同居する人)による虐待」「障害者福祉施設従事者等(職員)による虐待」「使用者(障害者を雇い働かせている事業主)による虐待」があり、統計的に、施設や家庭での虐待が多く、色々な施設や色々な家庭・家族がありますが、虐待を受けるのは、障害者の方や子どもたちなど弱い方達です。その方達を守っていかなければなりません。しかし、虐待にいたってしまう経緯の中には「介護疲れによるもの」や、「知識や技術不足」もあり、家族の介護の軽減や心のケア、職員も専門的知識を学び状況に応じて対応する事が、虐待される人だけでなく、虐待してしまう人と両方を救う事になると思います。(記事:松原)

2月 お誕生日 おめでとうございます



光 優輔さん 池田 ヨシエさん 政岡 りつ子さん 中田 茂代さん 泉 光太郎さん

自衛隊音楽コンサート

1月10日(木)奄美文化センターで自衛隊の音楽コンサート(予行練習)に、13名の利用者と一緒に観に行きました。本番と同じ振り付けで演奏をしていただき、特に印象に残っているのは、西城 秀樹の名曲「ヤングマン」を自衛隊バージョンで歌い、利用者の皆さんも一緒に踊り盛り上がったことでした。また、サンドペーパーを楽器として使うユーモアな演奏を聴く事も出来ました。なかなか聴く事の出来ない演奏会に招待してくれました、自衛隊OBの方にお礼言いたいと思います。本当にありがとうございました。(記事:里田)



大和村まほろばウォーキング

1月27日(日)、大和村(やまとそん)で行われた、まほろばウォーキング大会に、GH入居者(女性7名、男性8名)施設入所者(男性1名)職員4名、計20名で参加してきました。この大会は、GHの太倉(たくら)支援員が毎年参加している大会で、利用者さんの「是非参加したい」という声に応え、企画し、参加出来る事になりました。そして当日、朝8時愛の浜園を出発。目的地である、大和村のフォレストポリスまで約1時間かけて到着。そこは、奄美で一番高い山である、湯湾岳(ゆわんだけ)近くという事もあり、非常に寒く、この状況の中歩くことが出来るのだろうか、不安になりましたが、そこは、経験者である、太倉支援員の助言の元、利用者さんはニット帽、手袋、ホッカイロと準備万端でした。薄着で来てしまった私が、恥ずかしい思いをしたのは言うまでもありません。そして、受付を済ませ、午前10時、1kmと4kmに分かれて出発です。私は、4km参加の5名の利用者さんと一緒に歩きました。アップダウンのある厳しいコースでしたが、コース内には、緋寒桜が満開に咲いており、その桜を見ながら歩くと、きつい事も忘れ、いつの間にかゴール。ゴール後利用者さん達は、達成感溢れる、良い表情をしていたのが印象的です。ある女性利用者さんからは、「きつかったけど、楽しかった。来年も歩きたい。企画してくれてありがとう」と、言葉を頂きました。とても嬉しく思うと同時に「こちらこそ、笑顔で、楽しく参加してくれてありがとう」という気持ちになりました。今回、利用者さんの希望を叶える事ができ、嬉しく思いました。来年も是非、みんなで楽しく歩きましょう。(記事:河村)



たくさんの感謝を込めて・

愛の浜園広報誌「ぶうげんびりあ」は、「利用者の皆さんの園での生活をご家族に知っていただき、安心してもらいたい。」との思いからスタートいたしました。その発行ナンバーは、今月(2月)で236号のロングセラーになっています。創刊当初は、誤字や脱字も多く文章の表現力も乏しいために、最終的な確認をする立場としては、気の抜けない作業が続きましたが、号を重ねるにしたがい、その労力も軽減されていきました。その裏には、「ぶうげんびりあ」に対して毎月講評をいただいている、久留須 浩(くるす ひろし)先生のお力添えがありました。先生からのアドバイスが、私たちにとって大きな活力となり成長に繋がったものと思います。その久留須(くるす)先生から、昨年12月にお話しがあり、「これからは独り立ちしなさい。」とのお言葉をいただき、一抹の寂しさと不安を感じているところです。しかしながら、いつまでも先生に甘えているわけにはいきません。覚悟を決め、これからは自分たちの力で更なる成長を目指して、歩んでまいります。永年に渡りご指導いただきました先生に、紙上にて衷心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。(記事:榮野)



屋園ゆき三味線教室

～笑顔と幸せを奏でる音色～



「多目的ホールを使わせて下さい。」「どうしたの?」「Nさんと三味線をしてきます。」と笑顔で多目的ホールの鍵を借りに来る屋園(おくぞの)支援員。もう何回目だろう...この三味線教室が行われたのは...。きっかけは、Nさんから、三味線を習いたい。(三味線教室に通いたい。)というニーズがあった昨年8月の頃です。Nさんは、三味線は好きですが、実際に弾いたこともないし、三味線を持っているわけでもありませんでした。ニーズに応える為にはどうすればいいのだろうか?。三味線教室に通い、勉強する事も考えました。その為にご家族にも相談しました。でも、「音符や楽譜が読めない。」「三味線教室に通ったけど、難しくて面白くない。」等とならないようにするためには...。その時に、思い出したのが屋園支援員。レクリエーションや発表会、ジャンベ隊でよく三味線を弾いている姿が浮かびました。一度、Nさんがどのくらいできるのか、確認をしてほしいとお願いをすると快く引き受け、自分の勤務外の時間を使って、Nさんのニーズに応えてくれました。私は、1~2回程度の教室かなと思っていましたが、Nさんから「屋園支援員と三味線をするのは楽しい。」と、実施する度に、次回の三味線教室の日程まで予約していたのです。それから、何度も三味線教室は行われています。楽しい雰囲気や音色を奏で満面の笑みのNさん。また、Nさんに解りやすく伝わるように、インターネットや映像を活用する等、周りから「屋園ゆき三味線教室」と言われる所以がわかりました。(笑)。そして、Nさんのご家族からもNさんに三味線のプレゼントがありました。不定期に行なわれる屋園三味線教室。それは、自分ができることがあれば惜しみなく利用者さんの幸せの為に伝えていく...。そんな小さな気持ちから始めた取り組みでした。今日も多目的ホールで笑顔と幸せを奏でる音色聴こえます。 チャンチャカ♪チャンチャカ♪チャンチャカ♪(記事:辻原)



愛の浜園「願いをかなえるプロジェクト」～パーマに行きたい！パート2～

12月21日、朝の雨がうそのように晴れ上がった金曜日の午前中、池田ヨシエさんは美容室 CHEDU を訪れました。前回春にも来ていますが、その時は状況や体調を考慮してコテでカールを作ってもらうにとどまっていた。ちょうど1年前に「パーマに行きたい。」と、発言されてから今回やっと「パーマをかける」という事を実現できるようになりました。池田ヨシエさんは89歳。天候は暑すぎないか？寒すぎないか？顔色・調子はどうか？血圧は？様々の条件や健康状態を考慮して外出できる機会を慎重にうかがっていました。予定しながらも条件が整わず中止になった事もありました。入院してしまうのではないかと心配になった事もありました。けれど、そんな職員の心配をよそにヨシエさんはどんどん元気を取り戻し、天気も味方してくれて実現したのです。時々腕を大きく振り回す事もありますが、やっぱり昔から経験



してきた美容院の雰囲気を出し出すのか、とても落ち着いてカットやパーマをかける事ができました。美容室の方に「綺麗になりましたよ。」と声を掛けられると嬉しそうにしている様子が窺えました。今月で90歳を迎えるヨシエさん。いつまでも綺麗でいていただきたいと願うのでした。愛の浜園の職員全員の協力はもとより、美容室 CHEDU さんの親切で丁寧な対応に感謝申し上げますとともに、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。（記事：牧口）



（努力賞）

- ・森山 麻李亜さん・・・休憩が減り持続して作業に取り組む時間が増えてきました。
- ・西 順子さん、勝山 道代さん、生野 由子さん、濱手 輝代さん、中田 茂代さん、・・・クリスマスの壁画作りを頑張りました。
- ・満林 アツ子さん、濱手 輝代さん・・・落ち着いてお正月を過ごす事が出来ました。
- ・幸 裕次郎さん・・・外泊時に入浴をする事が出来ました。
- ・満林 アツ子さん・・・短期の居室の掃除を頑張りました。
- ・竹田 美喜子さん・・・居室の掃除を頑張りました。
- ・光 優輔さん・・・自分が飲んだ空き缶をゴミ箱に捨てる事ができました。

（奉仕賞）

- ・高 由香さん・・・作業の休憩時間に進んでゴミを捨ててくれました。
- ・猿渡 明弘さん、徳 朋裕さん、盛 重和さん、平山 和子さん、
- ・岩越 タツヨさん、叶 絹代さん、里 喜美子さん
・・・クリスマス会の飾り作りを頑張りました。
- ・田畑 栄さん・・・小さなゴミ箱のゴミを、大きなゴミ箱に移し変えてくれました。
- ・宝田 元気さん・・・コップ洗いを頑張る事が出来ました。

（親切賞）

- ・濱手 輝代さん・・・友達のお世話をしてくれました。
- ・郁 一男さん、中江 公三さん・・・友達の就床準備を手伝ってくれました。

陶芸窯新設

1月23日(水)、老朽化した電気窯から、新しい電気窯へ入れ替えを行いました。これまで十数年間愛の浜園の陶芸作品を焼き上げてくれた窯に感謝しつつ、綺麗な窯が入るという事でわくわくでした。半日を掛けて窯の入れ替えと電気配線を行い、夕方には窯の設置が完了しました。陶芸をしていく上で欠かせない窯が新しくなり、作品を作る私たちも気持ちを新たに、沢山の良い作品をこの窯で焼きあげていきたいと思いました。（記事：恵）



1月の愛の浜園

